

巻 頭 言

茨城県教育研修センター所長 猪瀬 宝裕

今年度はコロナ禍で研修が大きく変わった年でした。

緊急事態宣言下で、学校は臨時休校となりセンターでは来所研修が止まりました。例年どおり新規採用された先生方は、例年とは全く異なった学校現場に戸惑ったことでしょう。学校に子供たちの姿はなく、授業も行われていない。まだ会ったこともない子供たちのために、自宅学習用の教材やオンライン学習の準備などに奮闘していたことでしょう。

私たちセンターは、先生方に早く研修を届けたいと強く思うようになりました。まず取り組んだのが資料提供や動画配信による来所研修の代替です。学校現場の多忙感を踏まえ、日時を指定せず期間内に研修動画を視聴する方式にしましたが、私たちの思いとは違って、学校現場では日時を指定していないために学校の業務が優先され、研修をする暇がないとアンケートに記載されていました。週休日や勤務後の遅い時間に取り組んだ例もみられました。一方で、コロナ禍でも研修の機会を提供してくれたことを感謝する意見も多く、研修の必要性は疑いようがありません。私たちは、必要な研修を必要としている先生方に届けるためには学校現場の多忙な状況に研修をマッチさせる必要がありました。コロナ禍にあっては、研修を届けたいという気持ちだけではなく、実際に先生方が研修を受講できる環境整備も重要でした。

研修を受講する環境整備には学校現場の管理職や同僚の理解と協力が不可欠ですが、管理職に対しては職員の勤務を「研修」としていただくように発出文書に明記しました。これで受講環境がすべて改善したわけではありませんが、私たちは先生方が困難な状況下で受講して下っていることを知り、よりよい研修を提供する思いを一層強くしました。

6月10日から来所研修を再開しましたが、健康観察票、検温、体調管理、講座室定員半減などあらゆる感染防止策を徹底し、所員一丸となってセンターから感染者を出さない、クラスターを発生させないと肝に銘じて取り組みました。2月遅れの研修開始となったため、やむなく資料提供のみとして実質的に中止した講座もありました。センターとして、どうにかして現場で日々頑張っている先生方に良質の研修を届けられないかと模索していました。それが「オンラインエドカフェ」、「オンラインラーニング」に結実することになります。

コロナ禍においてセンターは、「ピンチをチャンスに」、「発信するセンター」を標榜し、生徒の学びを止めないと必死に頑張ってくださったすべての先生方に、「元気を届けたい」、「先生方の学びを止めない」というセンター所員の思いで今日まで頑張ってきました。

この研究紀要には、そうした所員の思いがたくさん詰まっています。発信するセンターに相応しく今年度も紀要を継続発刊できたことをうれしく思います。ぜひお手に取っていただき、一文字一文字に込められた思いに心を寄せていただき、ご意見やご感想などお寄せいただければ幸いに存じます。